

Koi-hime

# コイヒメ



vol.14

## 遊月恋歌

ゆーきい



性感灵感巫女少女  
**みこまん**

原作/ヤマモト月  
まんが/葵抄



オカまで憑いて♡  
みずきひとし



増ページ  
であるW

**哀饗の貴公子**  
井上元伸



性感  
巫女  
少女  
灵感

# みまん

第14話

原作

ルナ

ヤマモト月

まんが

葵抄

葵うさ改め





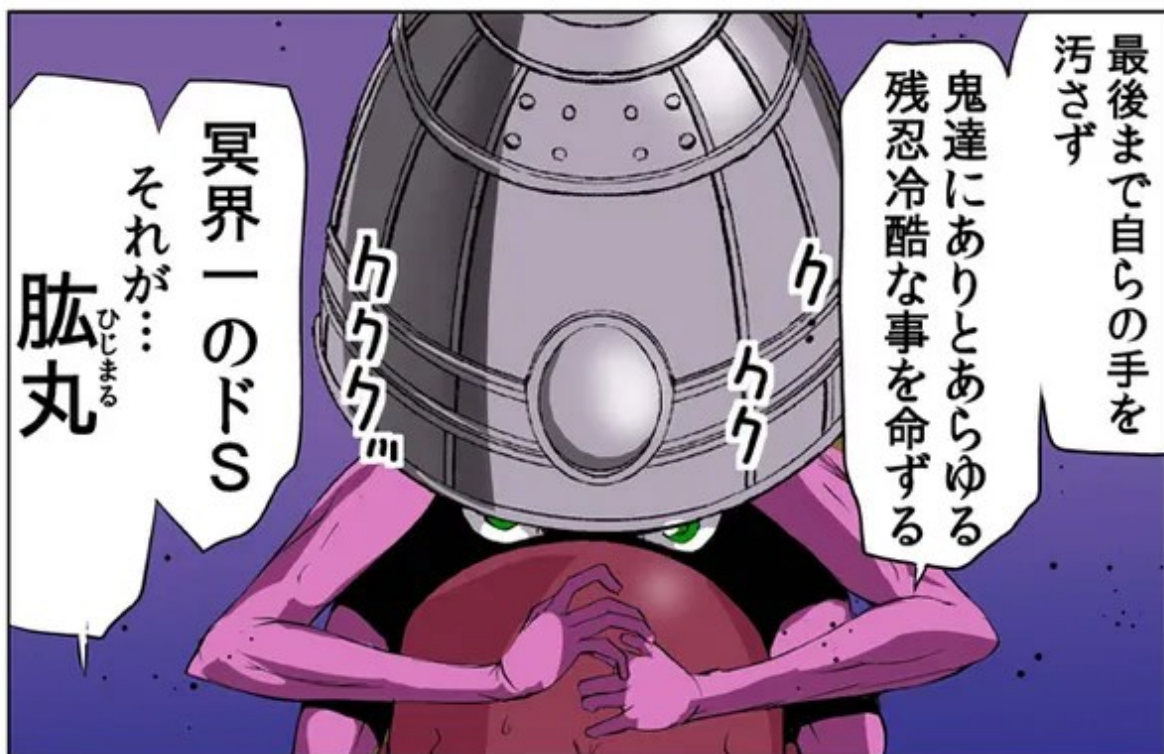


呼びました  
わね

鬼を

地獄界で最も  
恐れられている

冥界の刺客の  
軍団長



最後まで自らの手を  
汚さず

鬼達にありとあらゆる  
残忍冷酷な事を命ずる

くらくら  
くらくら

冥界一のドS

それが…  
肱丸 ひじまり



フフフ

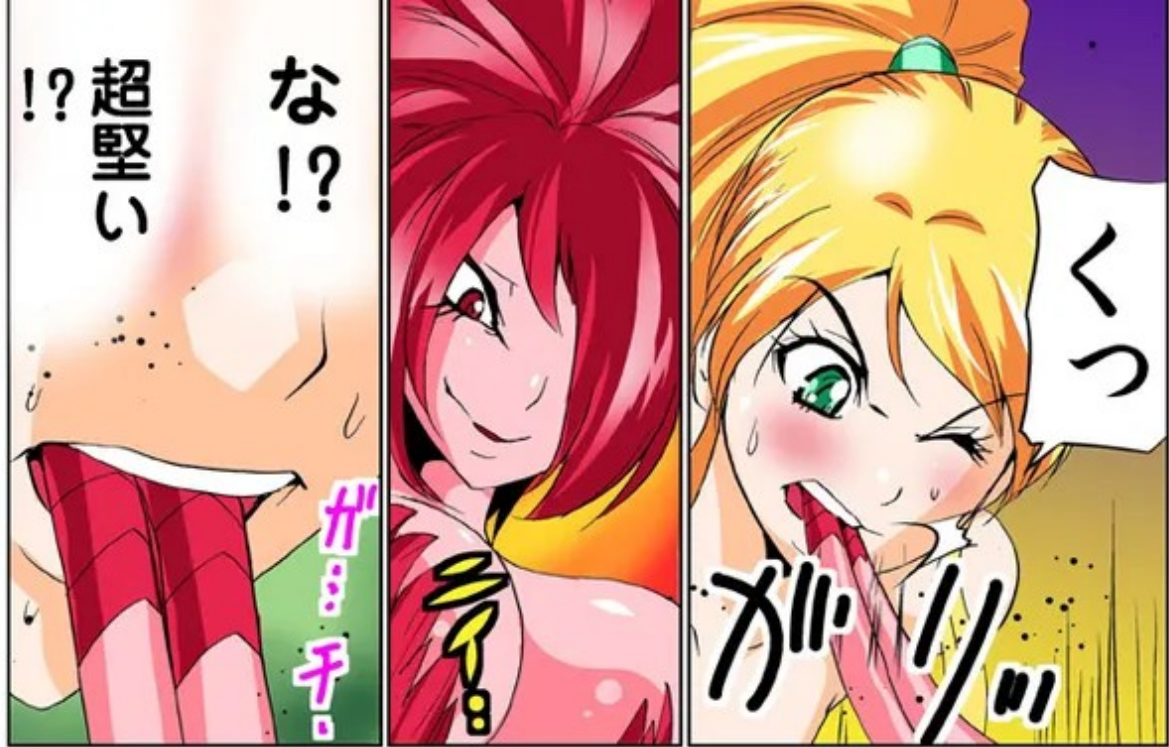
私は嫌い  
ですけどね

キモいから











初めまして

私の名は

ハガネオニヒメ  
金鬼姫



私ね千年もの間  
セックス地獄で  
のたうち回ってたの  
アソコを一人で  
ずうつといじって  
いたから…

見て  
指がこんなんに  
なっちゃったああ

ぬぬぬぬ



安心してこの指  
男なんかと違って

永遠に  
イカないから♡

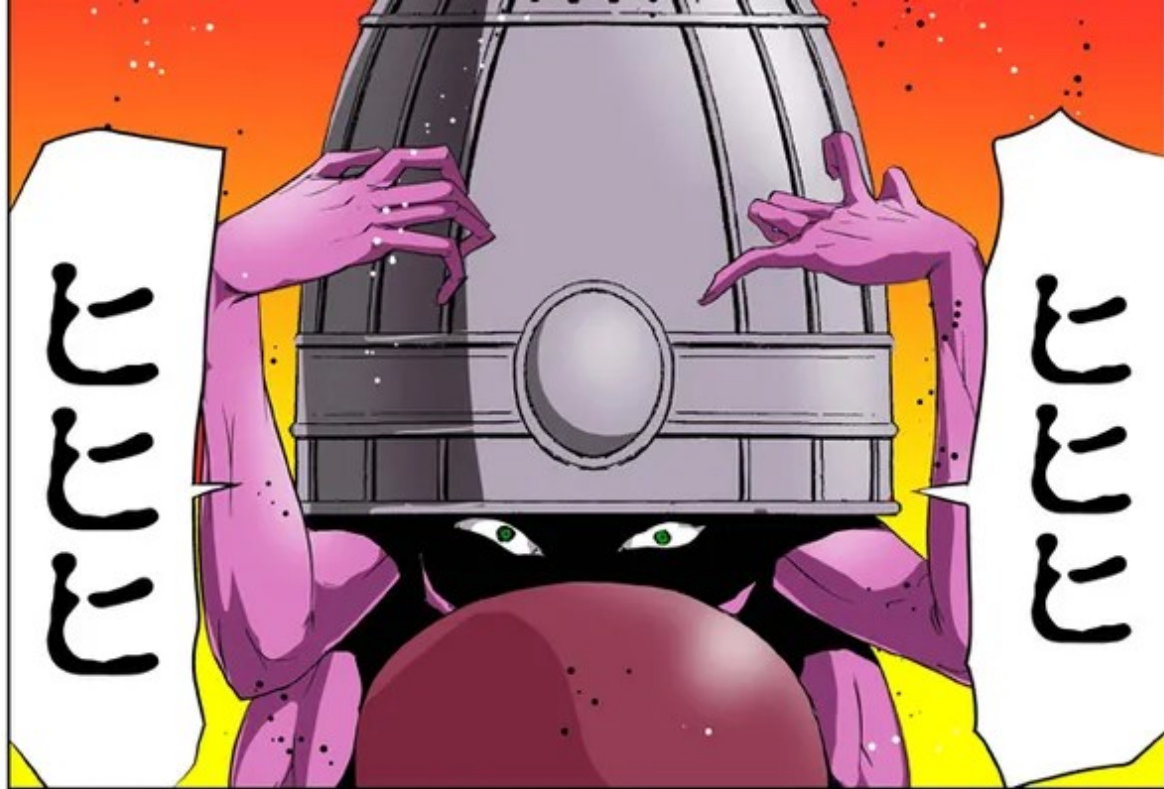
たつぷり  
たつぷり

ぐりぐり  
しちやうわね♡♡

ぐずぐず  
ぐずぐず

ぐんぐん





ヒヒヒ

ヒヒヒ



二匹の  
鬼っ娘はオしの  
秘蔵っ子だ

どうだ  
かわいいだろオ  
インランだろオオ



お前ら  
巫女どもを越から  
グニヤグニヤに  
したうえで

冥界へ拉致して  
ヒヒ

地獄の亡者の

ヒキッ

相手をた~~~~っぶり  
してもらうぜええ



んあう…

あう

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ

あう

んふうふうふう



か弱い

か弱い

ビュッ

ほんの少し力を入れただけで人間とは命果てるモノ



信じられませぬ  
ヒジ丸様

こんな者達が  
本当に

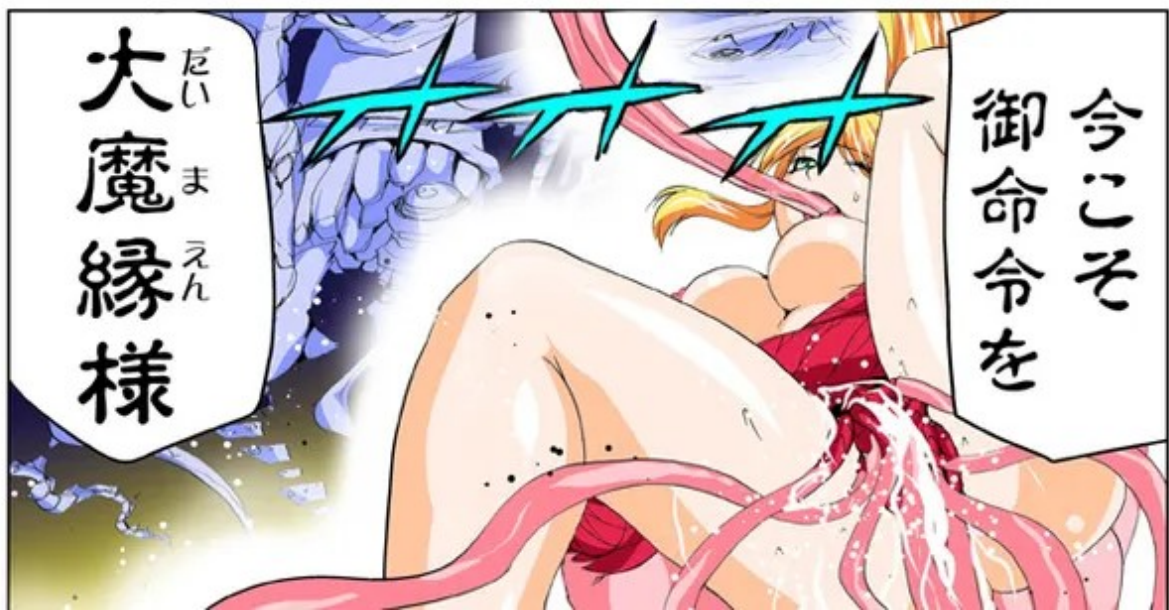
ぷしゅあ  
ぷしゅあ  
ぷしゅあ

あ

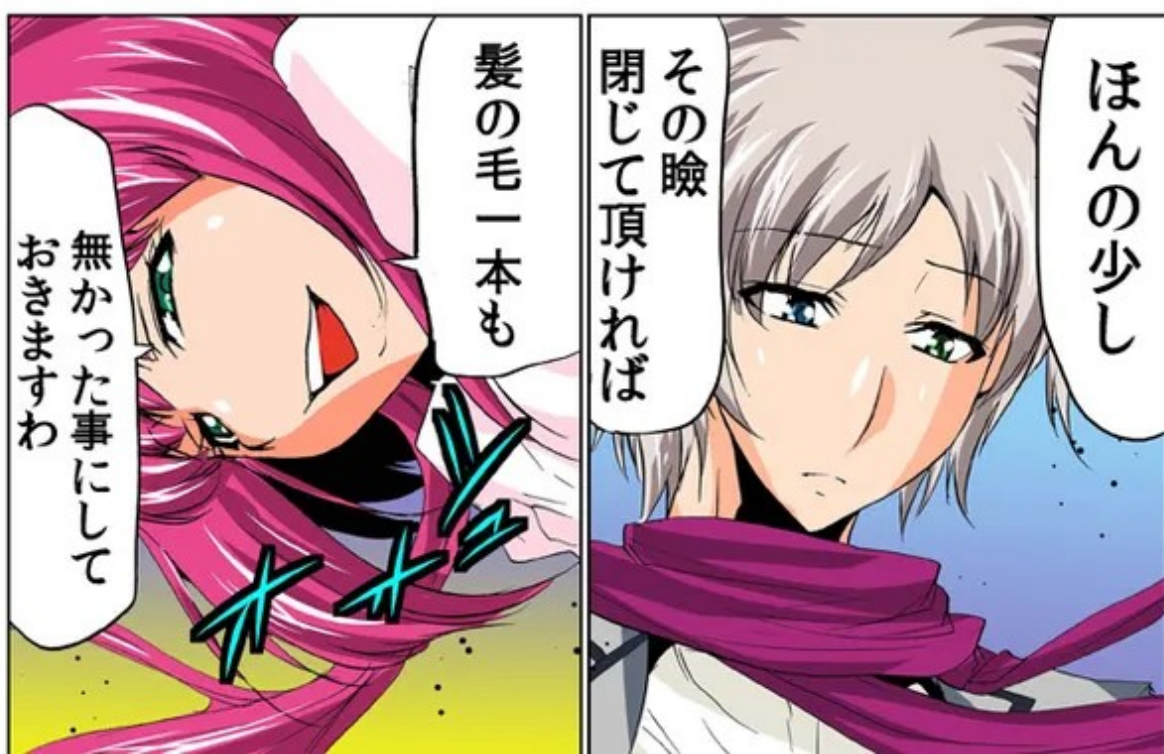
あ

んあああ

我々大魔軍に対抗しうる存在なのですか？















いぢわ…る

大魔縁…様の  
…いぢわる

こうして…  
蘇生しても

またもや…  
指でしか相手して  
くれませんか？

私の子宮に…  
大魔縁様の子種流し  
こんで下さいませ



私は…

嫌で…す

ずっと  
ずっと

姉の代用品で  
いるなんて…



今すぐ…

姉を…

まんげつを…

私に殺させて  
下さいまし…





あ

ふあ...

あ

あ

あ

あ

ビチャ  
ビチャ  
チャ

ビチャ  
ビチャ

あふあうああつああ

が  
が  
が











そんな事…  
させない…

私のこの身体が  
どうなっても…

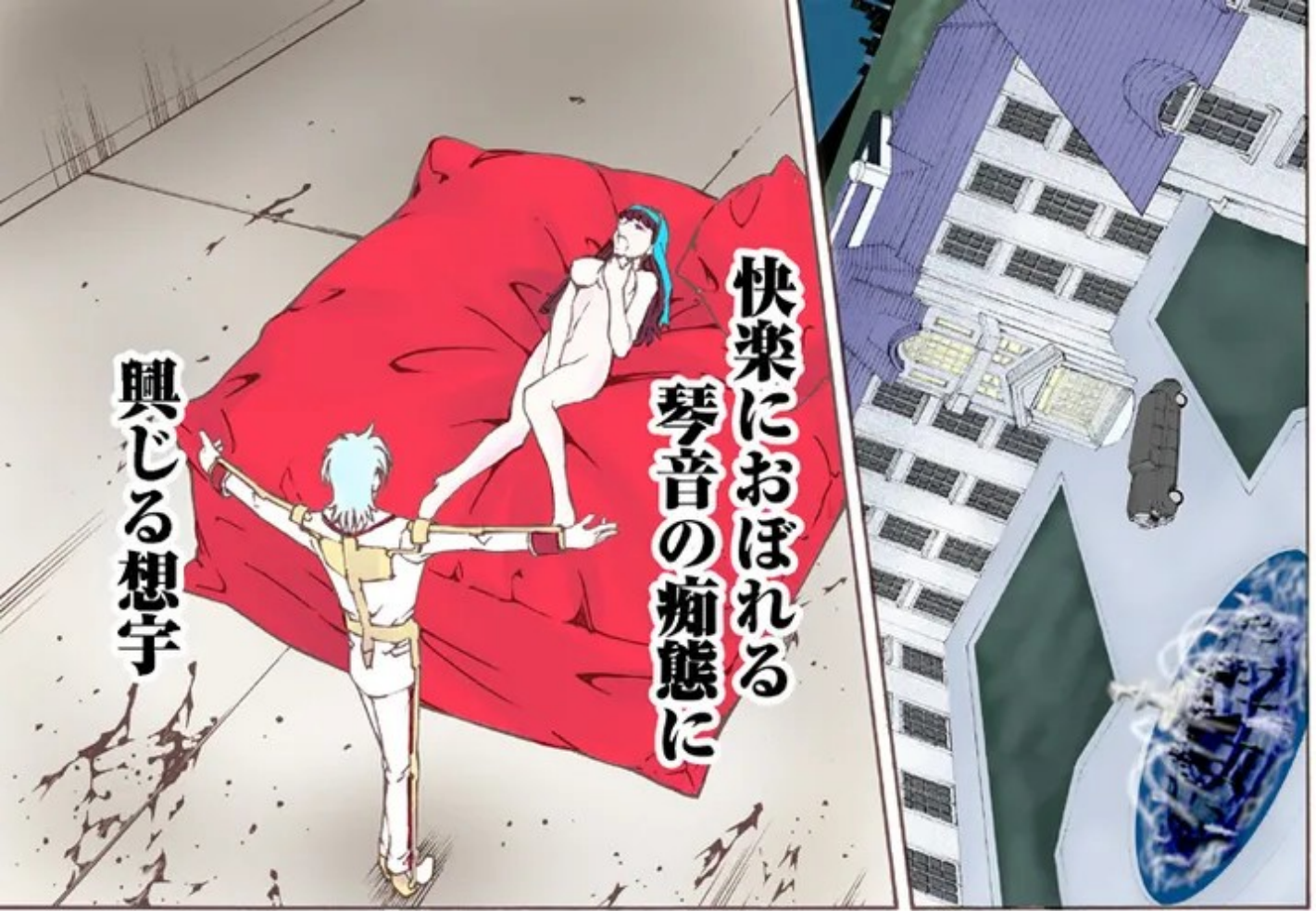
十六夜…三日月…  
この人間界を…  
護もるんだから

井上元伸



愛願背徳人形

反響の貴公子



私の生殖器体に

かすかな鼓動が…

ドクン

ドクン

ドクン



これは…

これは



復活の刻が

アレを…  
用意しろ

近い

は？

黄金…

あつ…アレは  
未だ試作段階  
でして…危…

!!

二度

言わせる  
気か…

は…ただちに

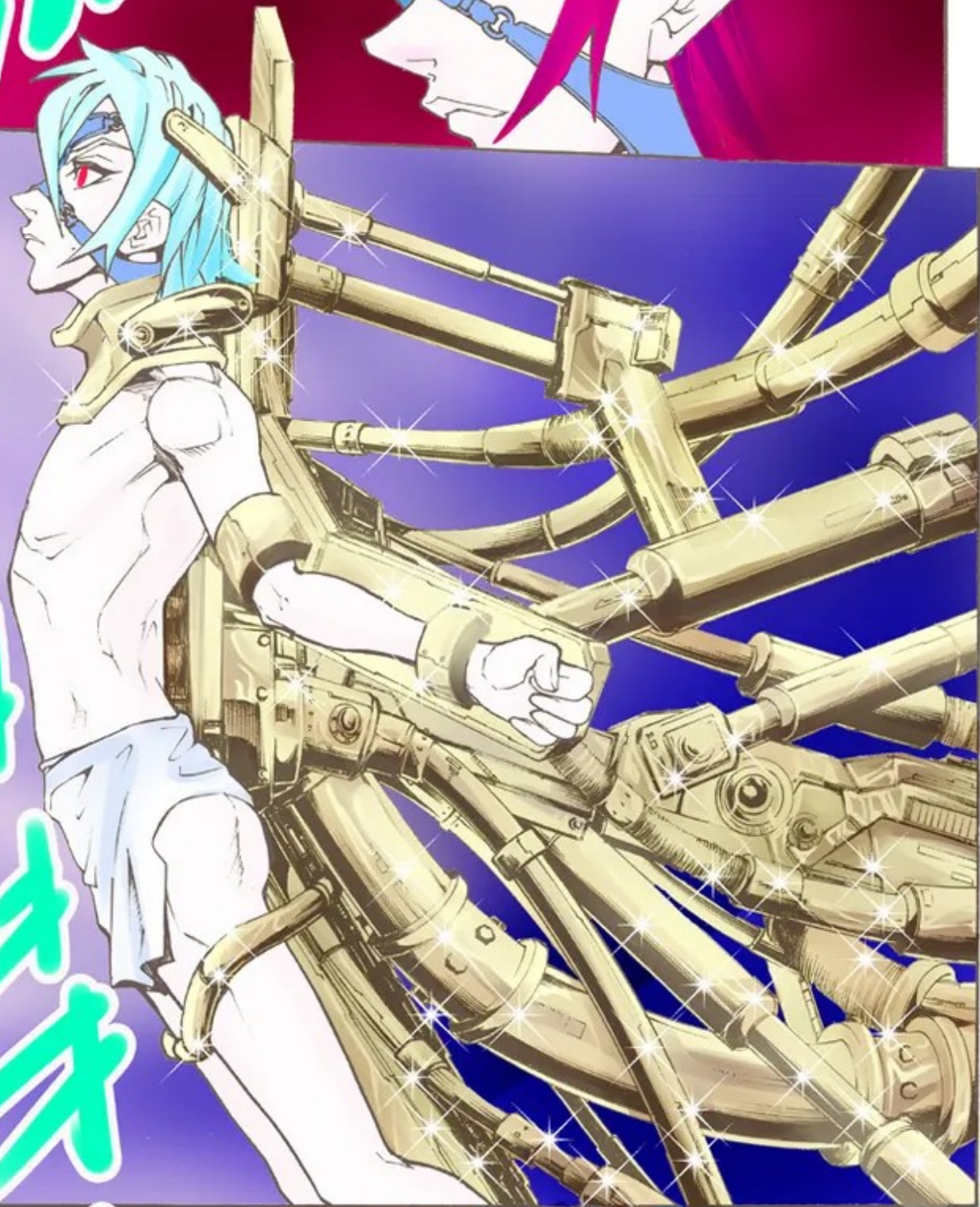


ニギハキイ





ゴ  
スト  
スト  
スト  
スト

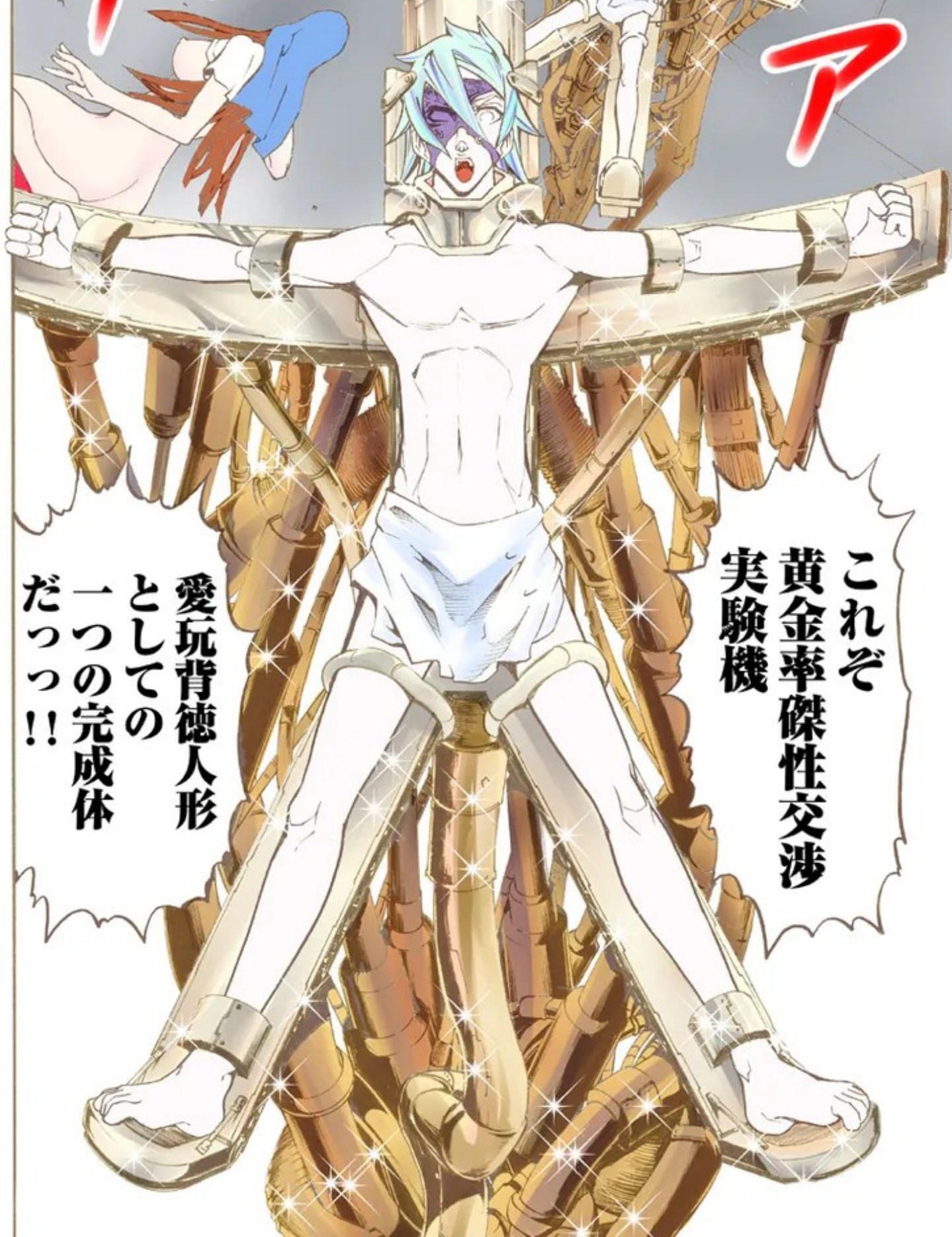


オ  
オ  
オ

ア  
ア  
ア

キャアア

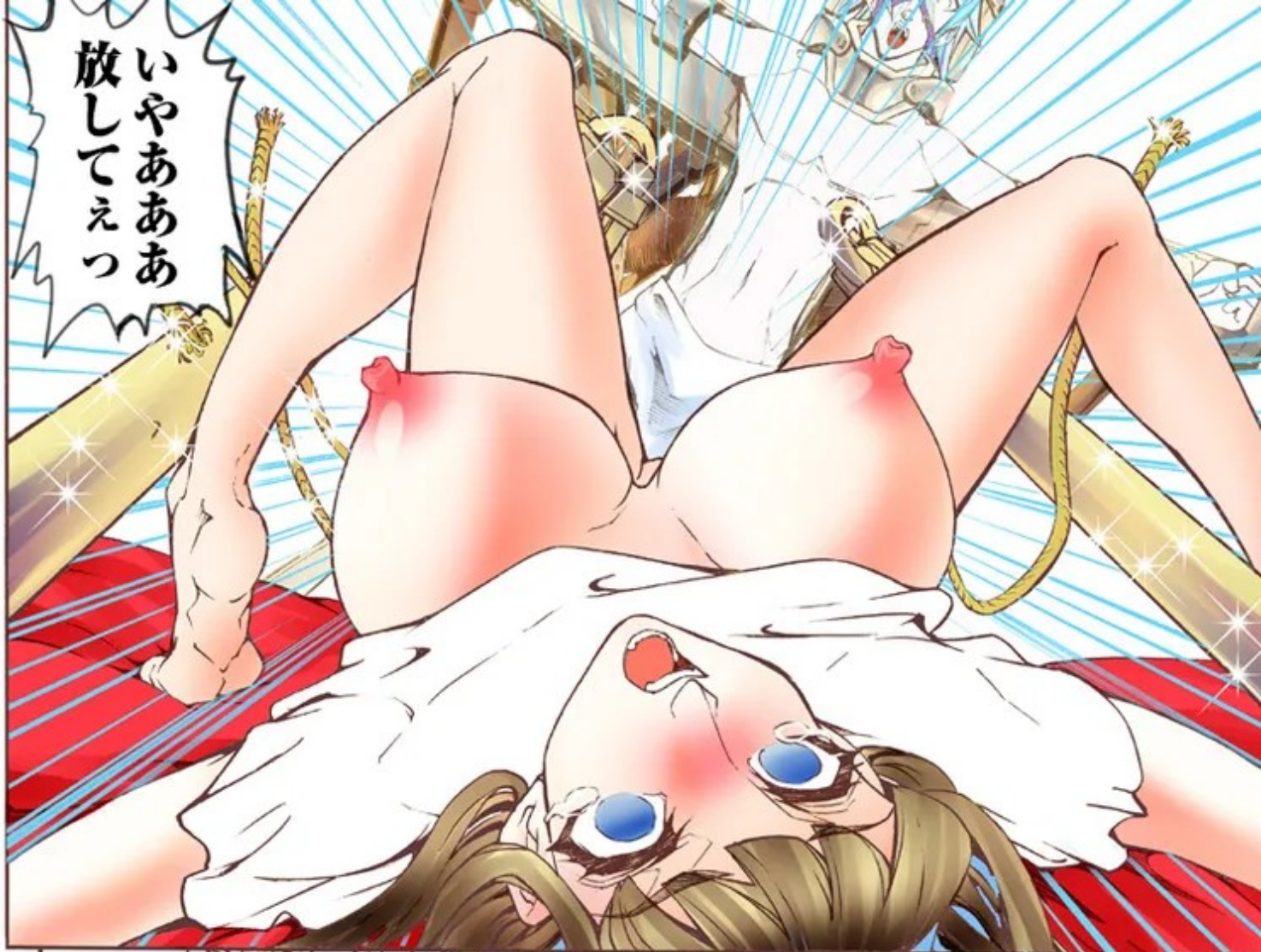
アア



これぞ  
黄金率傑性交渉  
実験機

愛玩背徳人形  
としての  
一つの完成体  
だっっ!!





くう



ああああ



起動

くくく  
本番は  
これからだ



ガン

9.7回の  
ピストン動作を  
可能とする

ガン  
ガン  
ガン

見よ  
本体に到っては  
分速580回  
秒速にして



そして



さらに  
一秒間に2・8周の  
回転動作を行う



受け入れよ







あきらめよ!!  
平穩なる日常など  
二度と得られぬ

汝を快樂の無限回廊へと  
強制連行してくれん!!



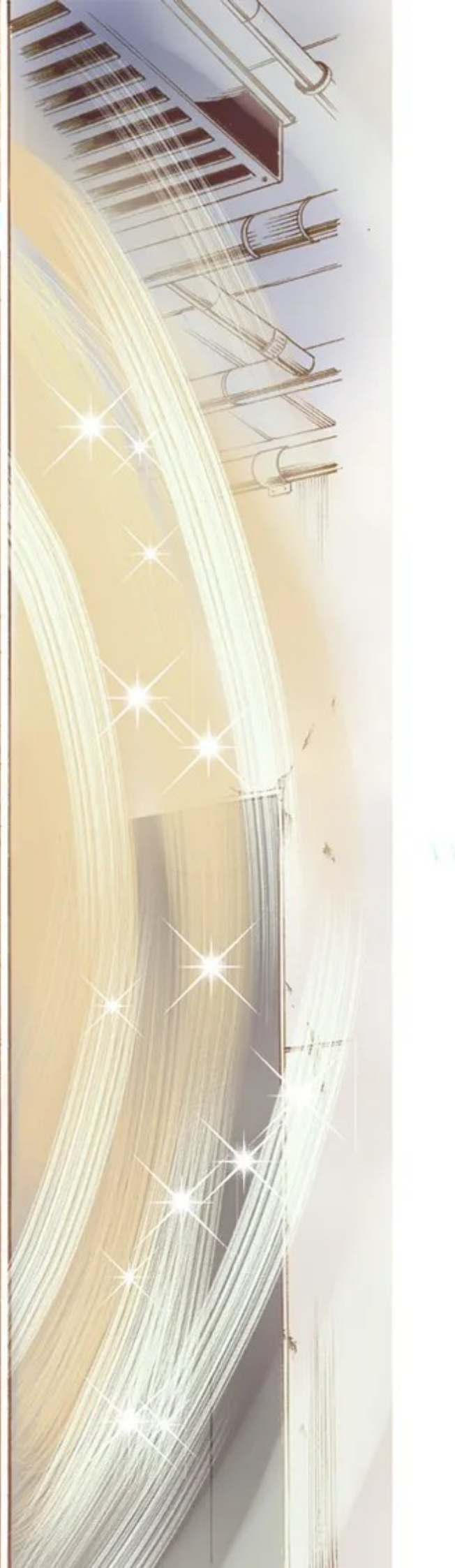
ンおう おおっつおう!!



ガッゴッ

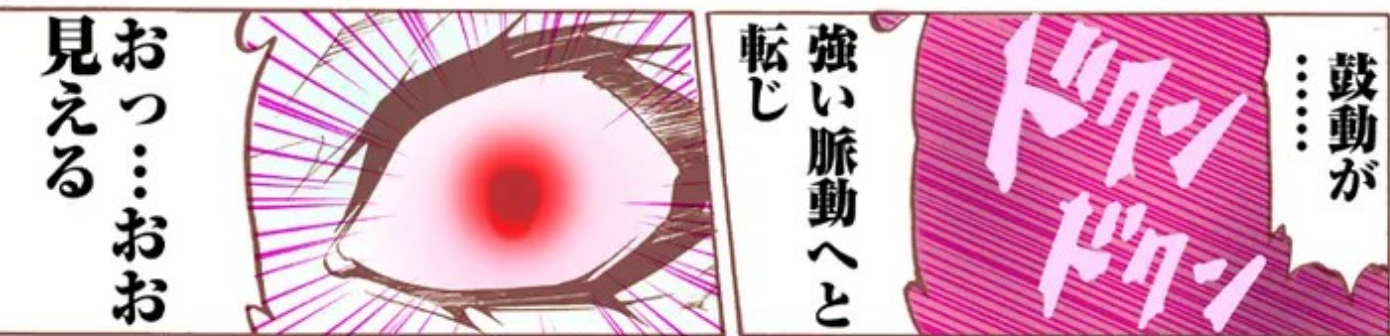
ガッゴッ

ガッゴッ









今まで  
洋水の中を  
漂うがごとく  
何も感じな  
かった  
この体に

が痛み

ドグッ

ドグッ

伝わってくる  
我が分身を  
通じて  
口内のやわらかさが  
唾液のぬめりが

か  
か  
か

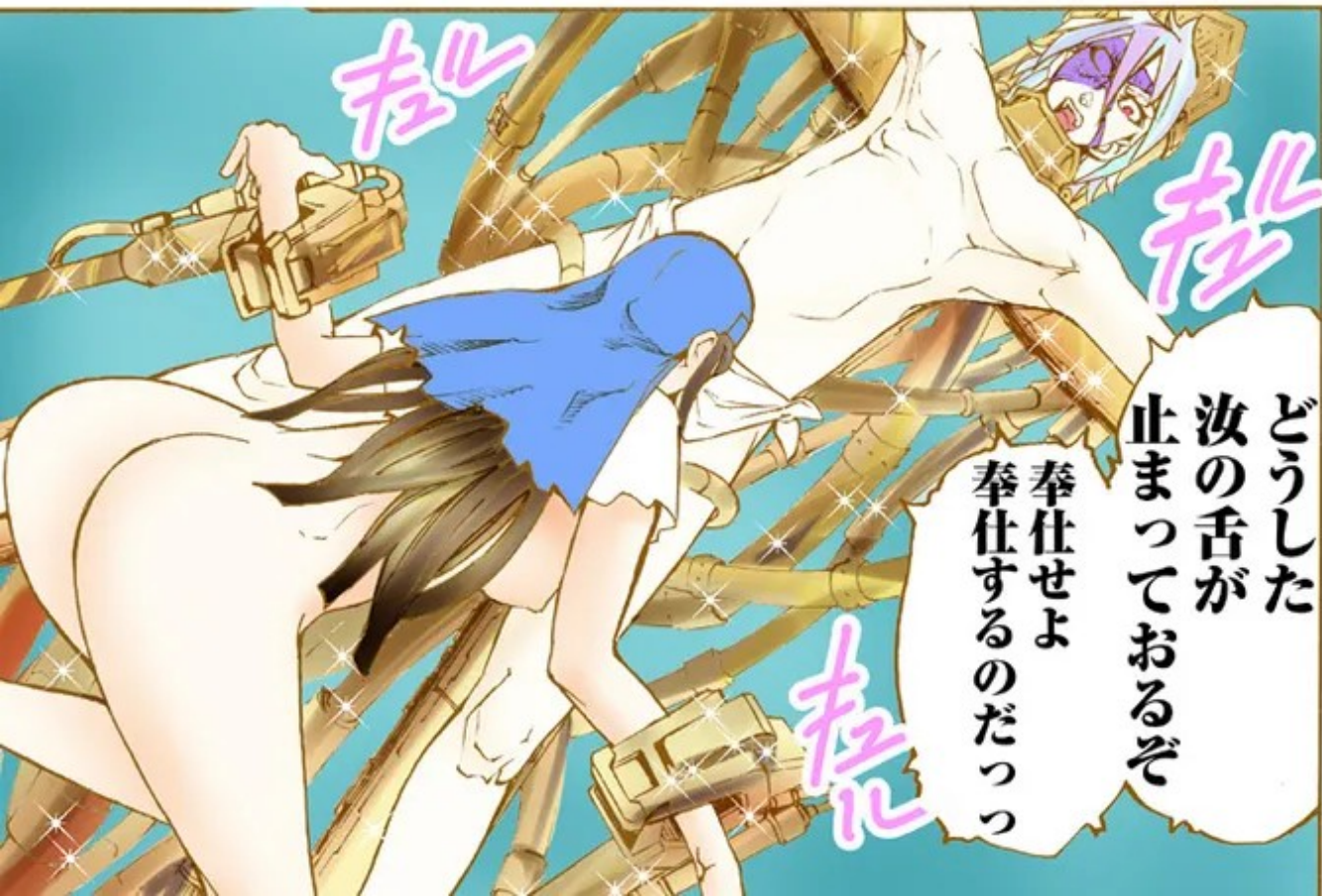
何より

母さま

お母さま

人ってこんななに

あたたかかった  
んですね





想宇さんは  
ずっと…

さみしかった  
んですね

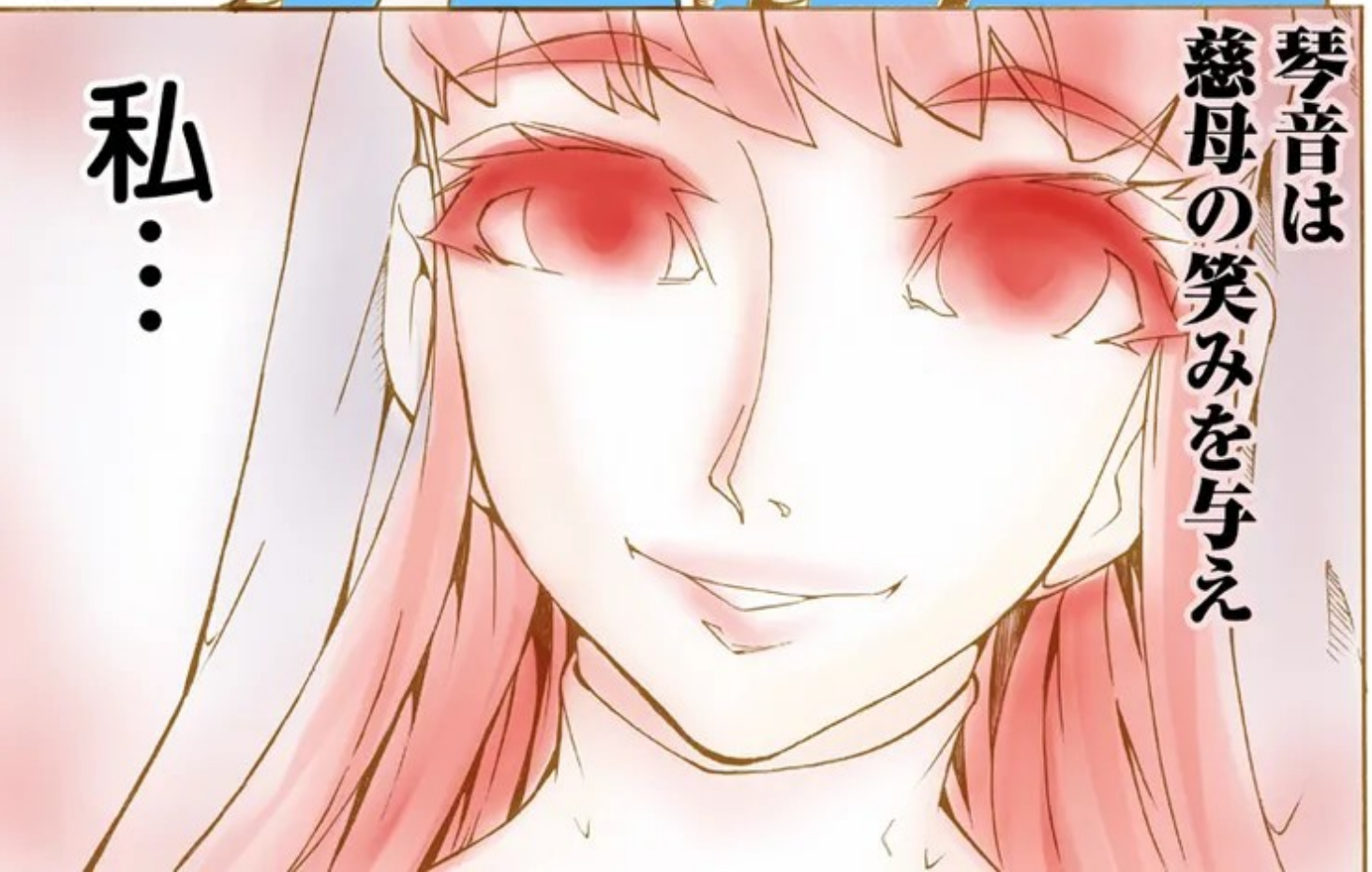
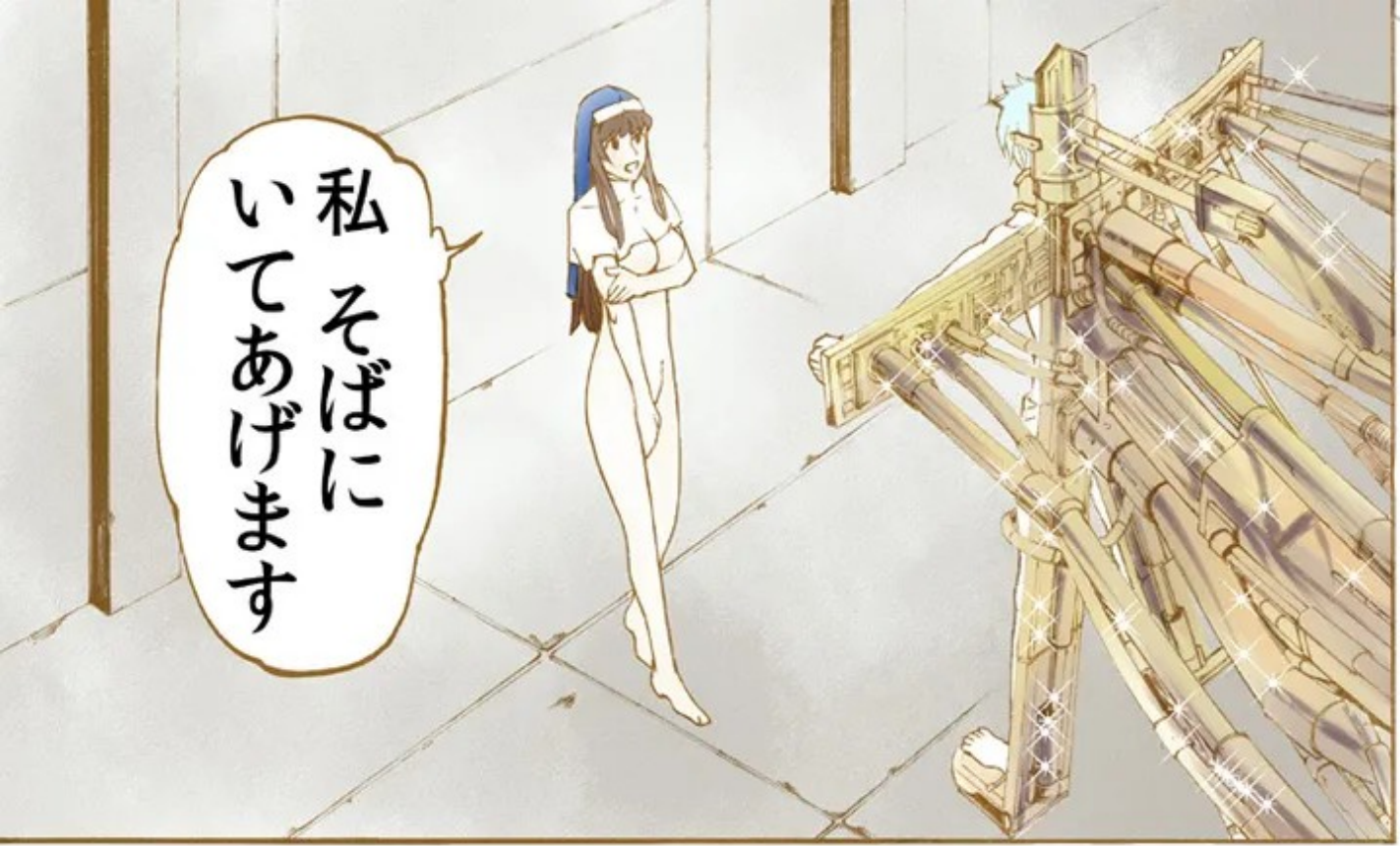


私には  
わかるんです

みよりもなく  
一人でさみしく  
余生を過ごす  
老人の方々と  
共に過ごして  
きたから…

だから…

だから



想  
宇は悪鬼の  
形相で返した





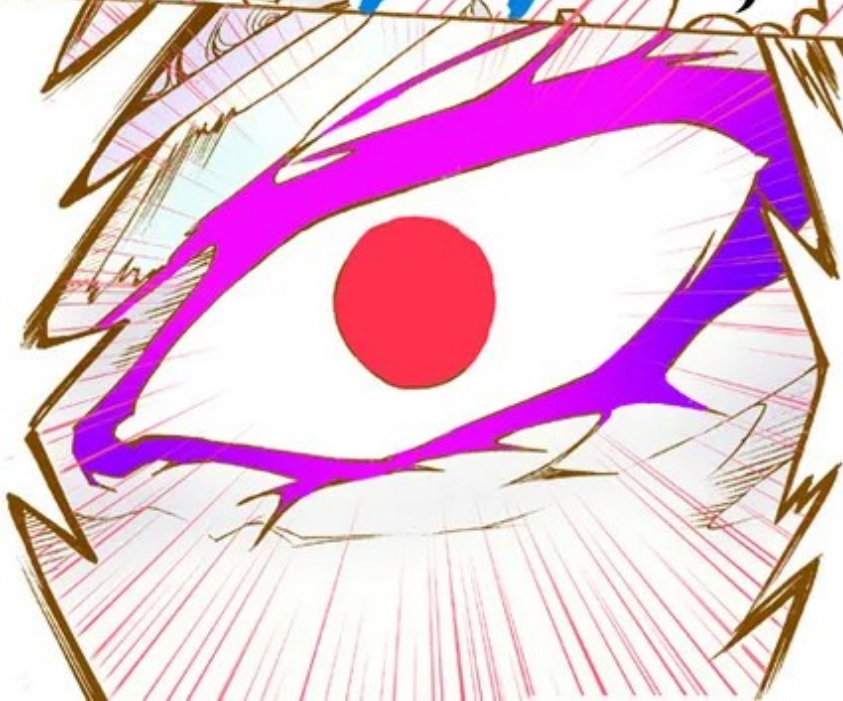
私の  
受け続けて来た  
苦しみを

何も知らず

何より  
私を私を

簡単に解つた様な気にな  
るなア~~~~!!

私をつつ



憐れむ  
なあああ!

本当は

嬉しかったんだ

キヤアツ

ガガガガ

だが 想宇は 自分の感情を表すすべを  
知らなかった

その心のカベは  
どこまでも厚く  
冷たかった

想宇は  
熱いナミダを  
流しながらも



ナカまで憑いて♡



みずきひとし







すっごく奥にくるよおっ

おっ...奥にっ



これすいっ

すっ...すいっ



ああーっ



友美ちゃんっ

そ...そろそろいくよっ



いいよっちようだいっ

あたしの腔内にいっばいちようだいっ





遅いつ!!



む!



ゲーム1本買いに行くのに  
何時間かかっとなのじゃ!?

しょーがないだろ!!  
オレにだって用事くらい  
あるんだから!!



な...  
なんだよ?

フン  
フン  
フン



女の匂いだ!!

い...いやほら...  
帰りにフロ入って  
きたから...

セツケンの  
香りじゃね?

ウソつけ!!



家風呂があるのに  
外で入ってくるよーな  
キヤラかつ!!

吐けっ!!

どんな女と  
やってたっ!?

はひやへひや  
ほひやほひや  
っ!!



何言ってるのか  
わからんわ——っ!!

そんな——っ



だっだいたい  
おまえはこの家に  
憑いてる座敷童  
なんだからっ

オレがどんな女と  
つきあおうが  
関係ないだろっ!!

ほほ——う

そこまで言われると  
ますます興味が  
出てきたぞ!

一体どんな女か  
意地でも調べて  
やるわ!!

座敷童

アー——っ!!

うわっ!!

ううっ...



ほほう……  
アホ毛装備の  
メガネっ娘とな!

キサマの好きそうな  
キャラじゃ!!

ええっ!?  
なんでわかるのっ!?

座敷童アイ  
すげえっ!!



メイド服装させて  
ご主人様ブレイでも  
したのか?

それとも  
よう〇えん  
ブレイかっ!?

そっ そんなこと  
しねえよっ!!



免許入れの中に  
写真が入ってた!

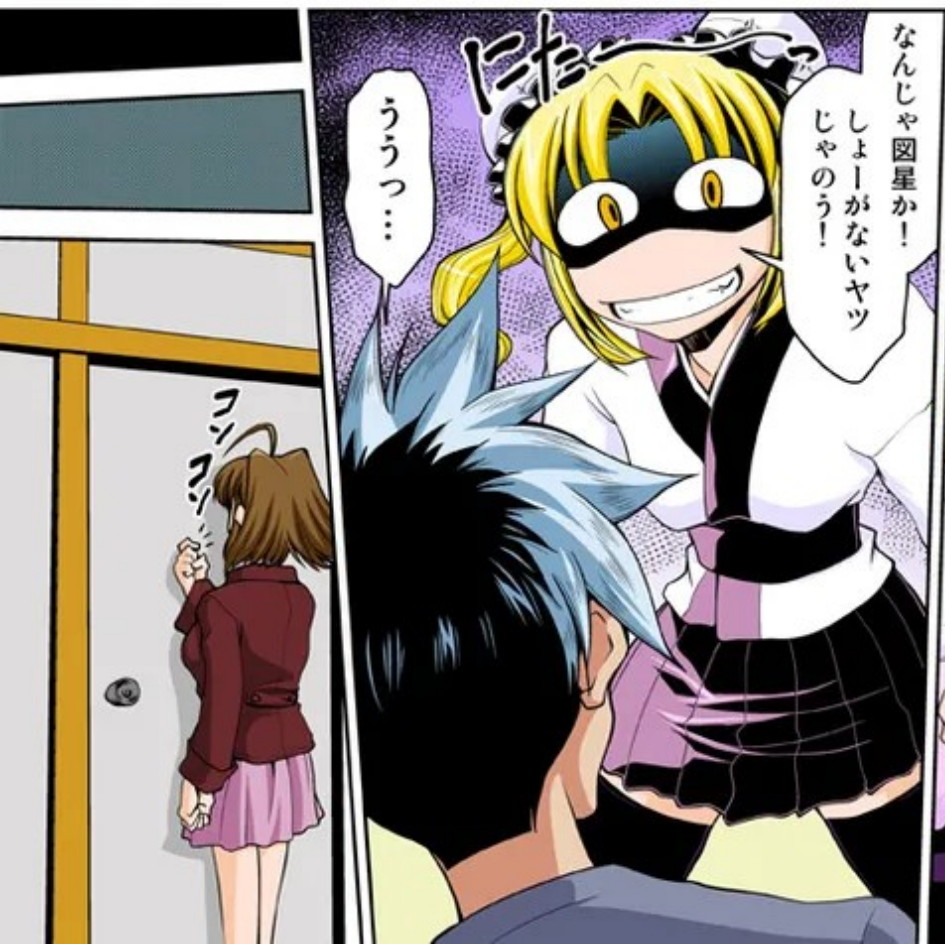
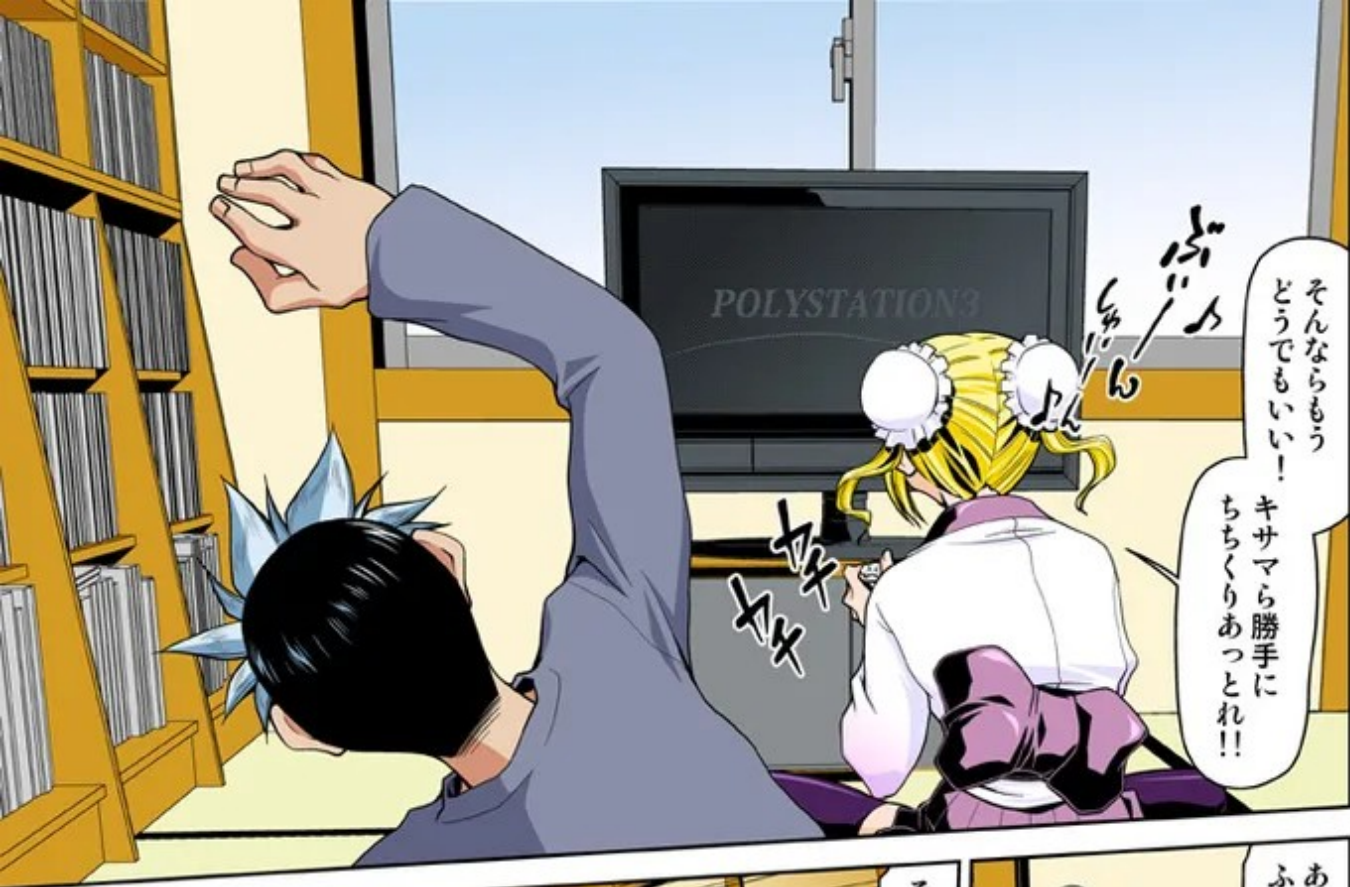
キサマもなかなか  
古風じゃな!



友美ちゃんは  
フツの  
女の子なの!!

そんな  
オタ趣味なんて  
ねーよっ!!

なんじゃとーう?





この度はお招き  
いただきありがとうございます  
ございます…♡

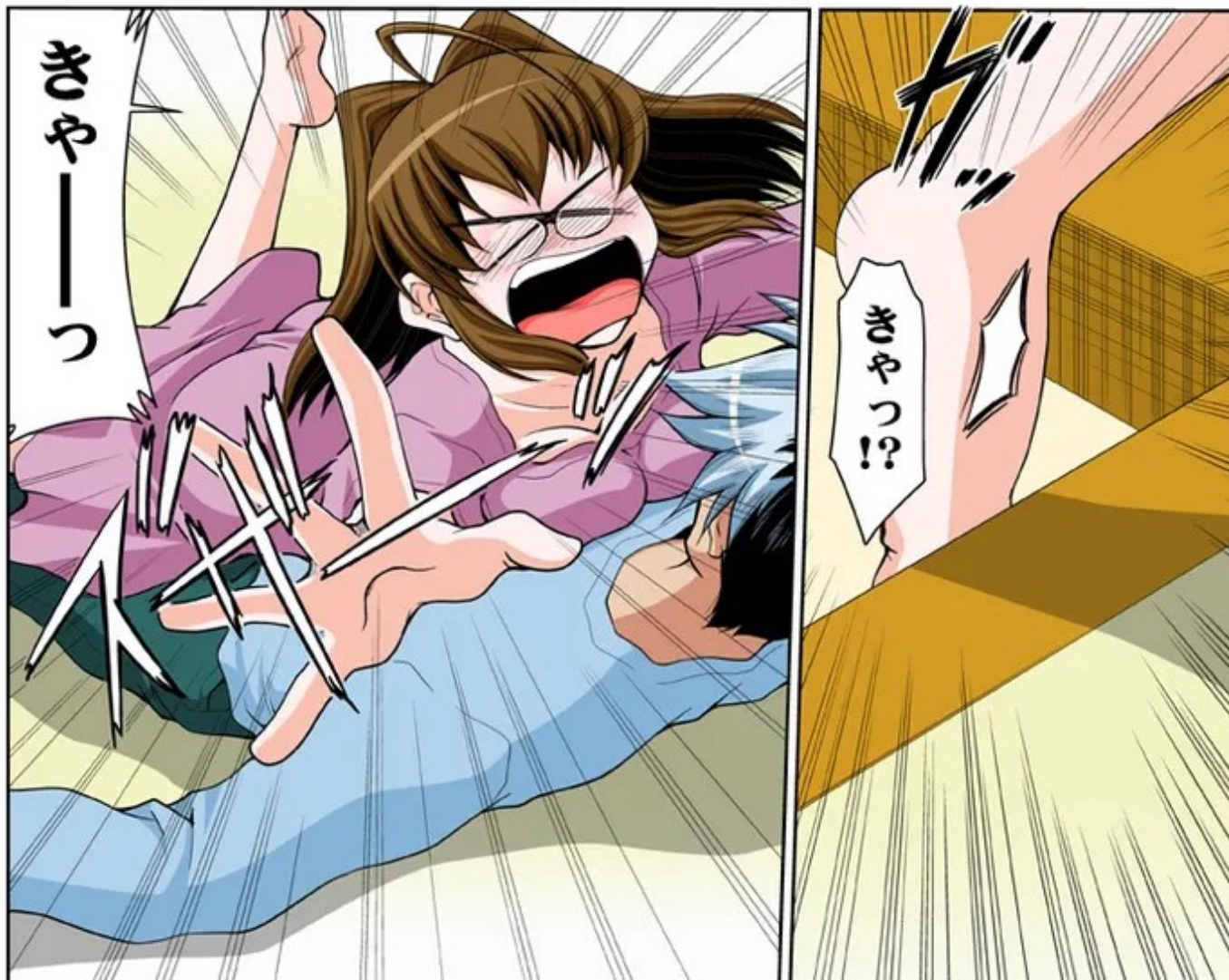
あ…あの…



あ…あたし  
男の人の部屋って  
初めてで…

まあ上がって

あ…うん…  
そんなに  
かしこまること  
ないよ



きや—っ

きやっ!?



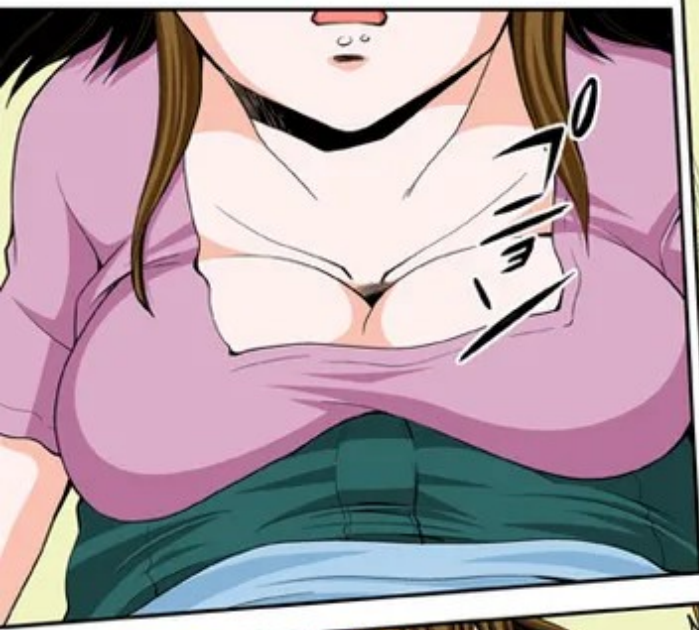
\*姿を隠して

おっ！  
下ツッ娘属性まで  
あるとはやるな！



だっ…だいじょうぶっ!?

ごっ…ごめんなさいっ  
あたしったら…!!



なんかくやしい!!



しかも無意識に  
あててんのを攻撃まで!!

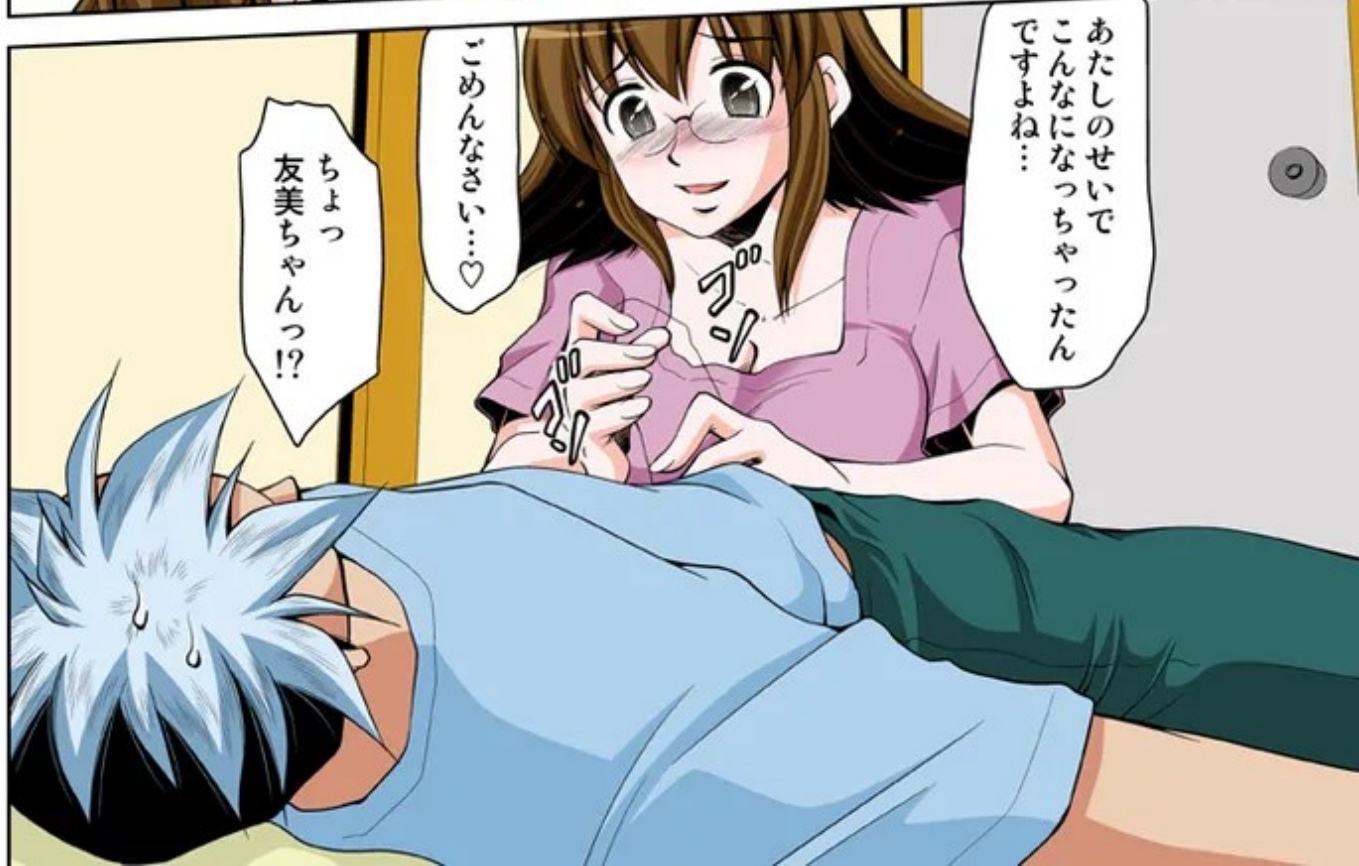


やだっ  
あたしったら…!



〇〇〇〇

あつ…あの…  
友美ちゃんっ  
そのっ



あたしのせいで  
こんなになっちゃったん  
ですよ…

ごめんなさい…♡

ちよっ  
友美ちゃんっ!?



うわっ…!!



はっ



おおっ

おおっ



はっ

はっ

とことんジヤマ  
してやる!!

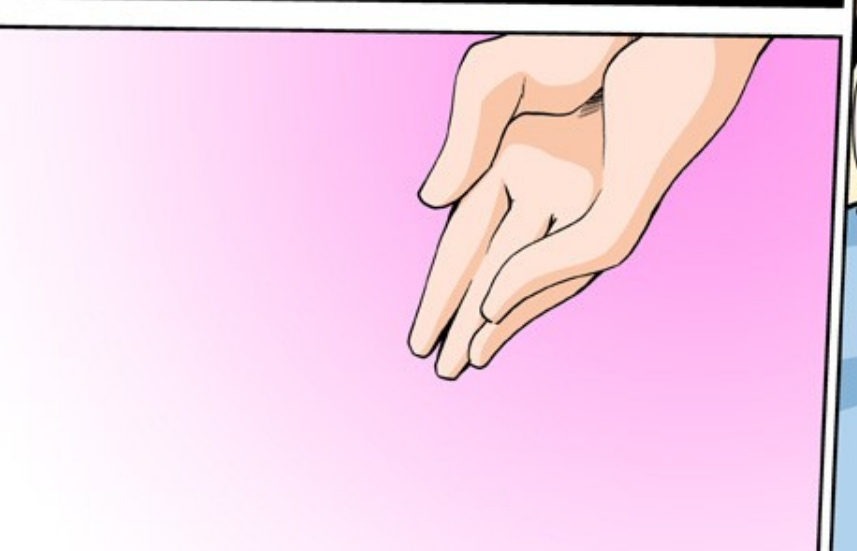
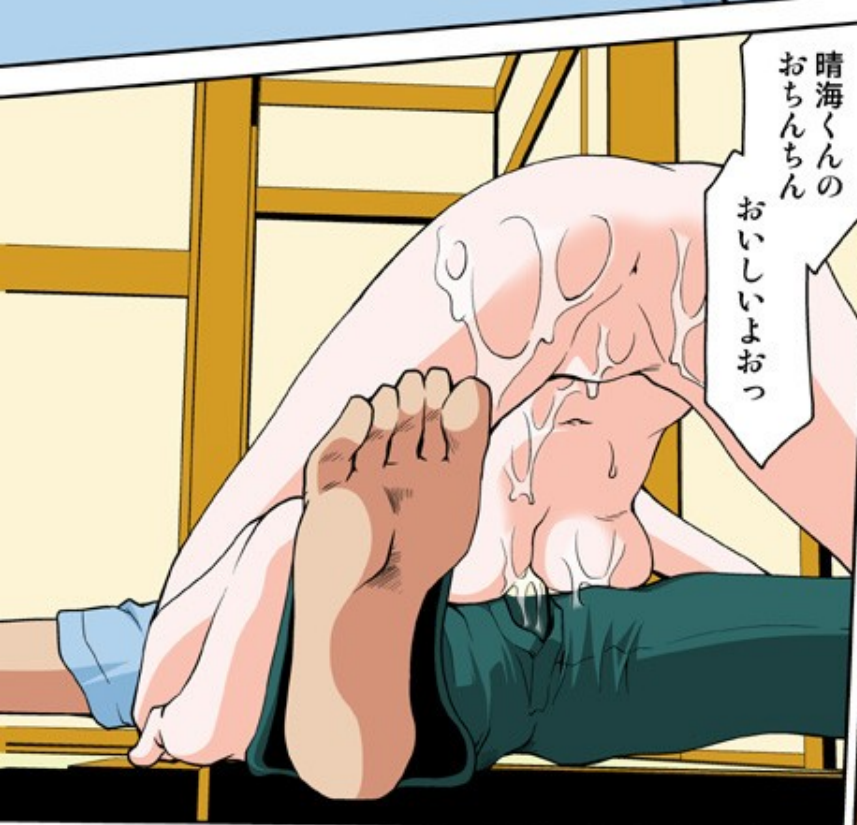
ジヤマしてやる!

なんだこの  
無敵超人!?

しかもかなりの  
インラン!!









さあ嫌われるがいい  
晴海!!



どうだ!  
フツー尻がOKな  
女なんか  
そんなにいない!



いやあっ

あっ  
そんなっ



や...やめ...  
そっ...  
おしり...  
おしり...



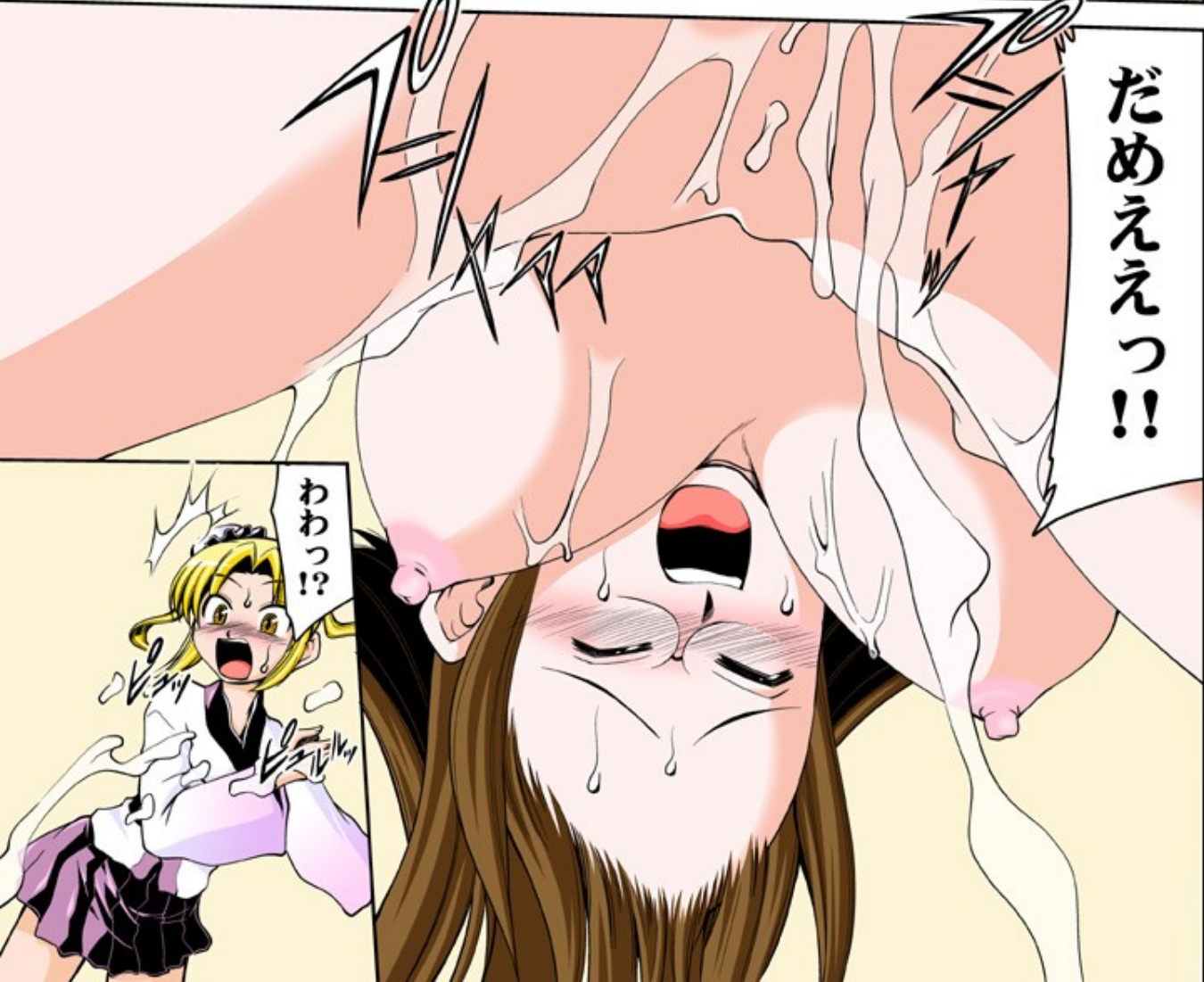
晴海くん  
やめてえ…

だめ…

や…  
=ジツッ =ジツッ =ジツッ



い…いや…  
オレなにも…



だめええっ!!



わわっ!!



おしり弱いの  
黙ってたのに…♡

え？

え？



んもう  
晴海くんたら♡



し…潮吹きやがった  
この女!!



は  
は



ああーっ

ぐわんぐわん



ぐ…

スイッチ  
入っちゃったじゃない♡



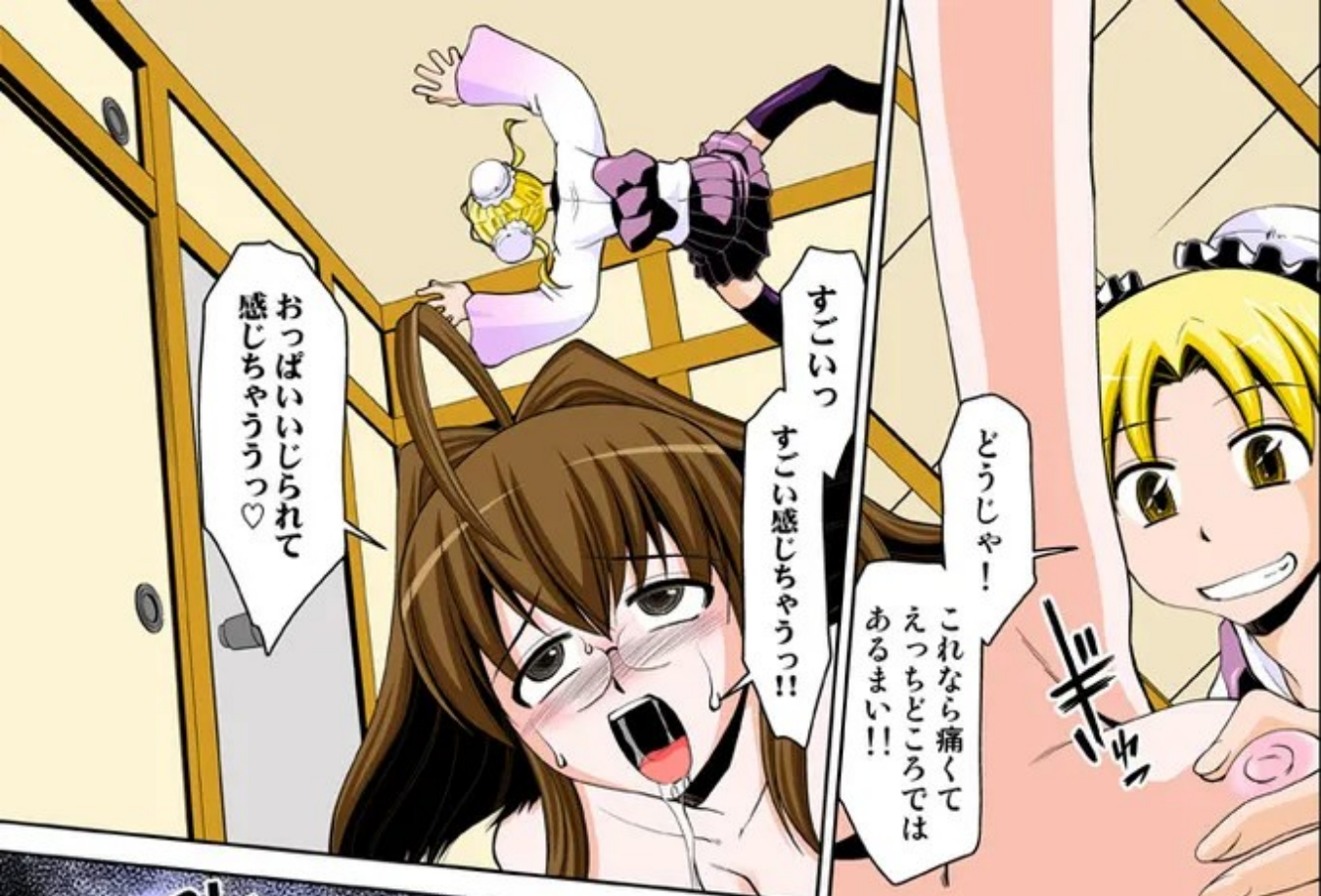
うわっ…

きっ…











あああ……

あ……

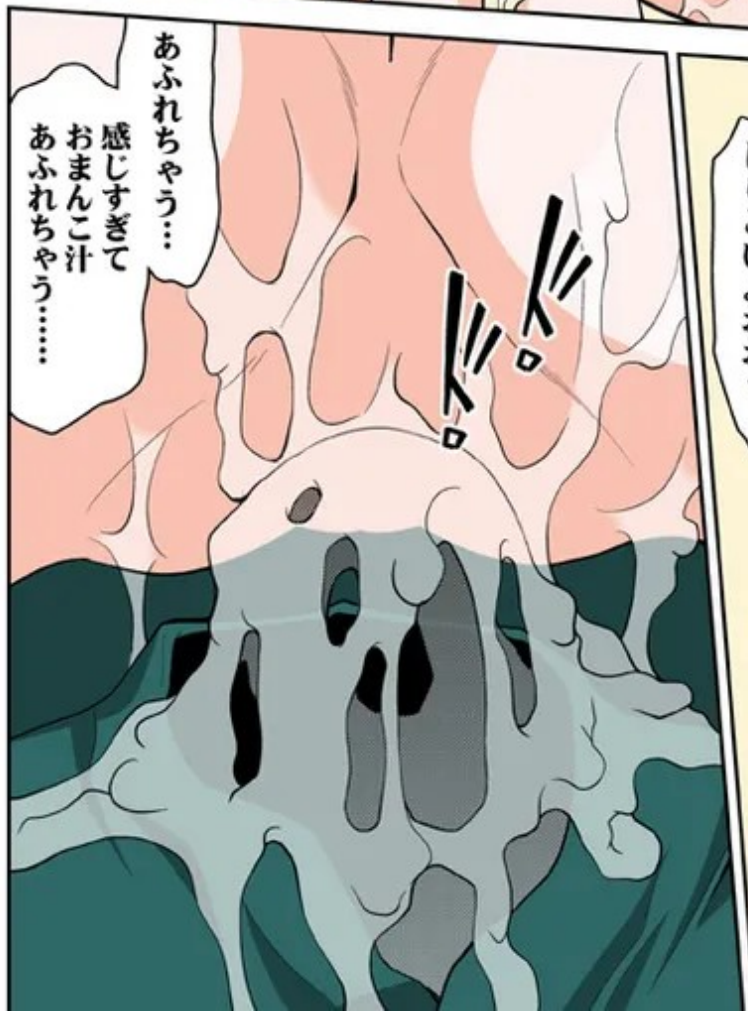
カクカク



フム……



ふぶぶ……



あふれちゃう……  
感じすぎて  
おまんこ汁  
あふれちゃう……



カクカク  
カクカク

カクカク

カクカク



お……  
おかしく  
な……  
……つちやう……

おかしくなつちやう  
ろおおおつ



うっ  
びい





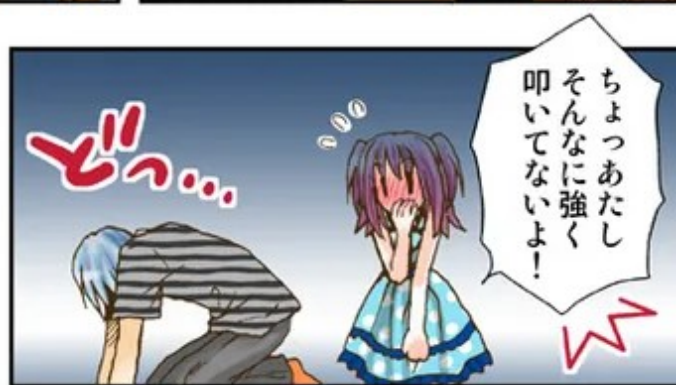
# 遊月恋歌

第一回  
第1話

オトメの祈り

ゆーり









…なんか…  
今日の有華  
いつもと雰囲気  
違う…ような



だからなくさめたげる  
って言ったじゃない  
フられちゃったんでしょ  
お兄ちゃん

なに?なにが  
起こってるの  
いったい—?



…お兄ちゃんお待ちせ

ドギャンーニ



こいつ…いきなり  
こんなことするなんて

ギキ  
ギキ



フラッ  
ちょ お前それ  
ホントに  
そういう意味で  
言ったのか!?



ほろっ  
好きにしていーよ  
お兄ちゃん

有華……



ん…  
ちゅ  
ちゅ  
実はこの年にして  
相当遊びなれてる…  
…のかな……



ここ数年は  
たまに行き帰りに  
会う有華と

あ……

アロニャっ



家庭教師として一緒に  
勉強する有華しか  
才しは知らなかった

あ……

ムニャッ

アロニャっ

グイッ

ムニャッ

ムニャッ



カッ!!!

うっ…あ



休日には華は  
何をしてるんだらう？

彼氏がいたような  
様子は  
無かったけど—

ぬっ  
ぬっ  
ぬっ



…あんまり  
濡れてないし  
…これって…

あれ…  
なんかきつ…

おにいちゃん…

はっ…

くっ  
くっ  
くっ

はっ  
は…



でも  
入れちゃえば  
平気だから…!

ごごめんあたし  
濡れにくい体質  
…っていうか…

有華：  
まさかと  
思うけど—

ぎゅん☆





有華の  
やわらかいものに  
包まれると同時に  
すべてが  
どうでもよくなった

ドゥ  
ドゥ  
ドゥ

あーっ  
あーっ



ああ……きつい……

けし  
おかし  
い……



有華……!!

ズッ  
ズッ

あ……っ  
あ  
は  
は  
は



お兄ちゃん……っ

キョー  
キョー





それならそれで…  
あんな風に誘惑しないで  
ちゃんと告白して  
くれたらいいのに…



もう泣くな有華…  
気づかなくて悪かった

初めてなら  
もう少しやさしくして  
あげればよかったな

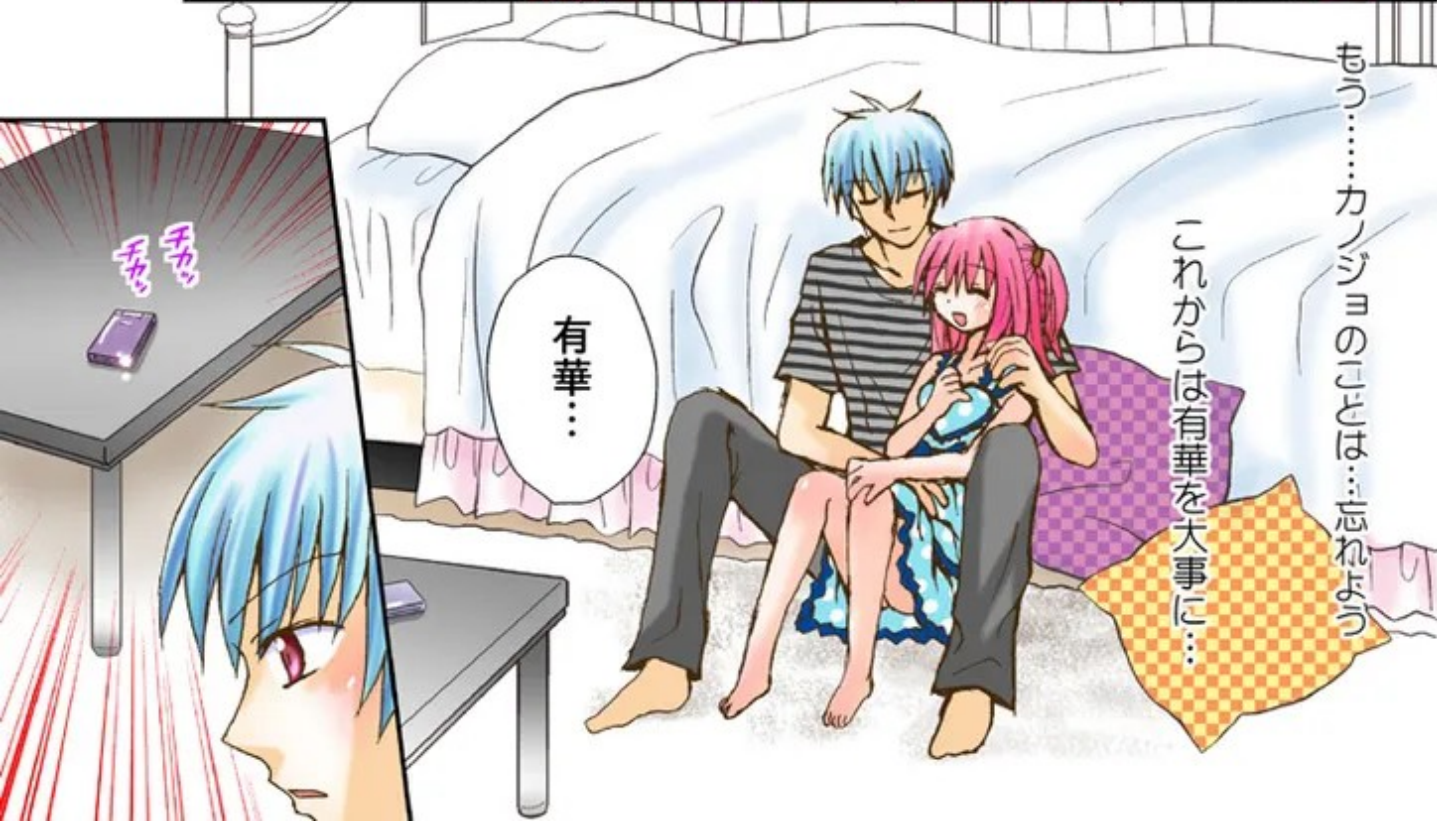


不器用なやつ……



ううん…いいの

あたし初めての人は  
絶対お兄ちゃんのが  
いいって決めてて  
それが叶ったんだから  
…うれしかったよ

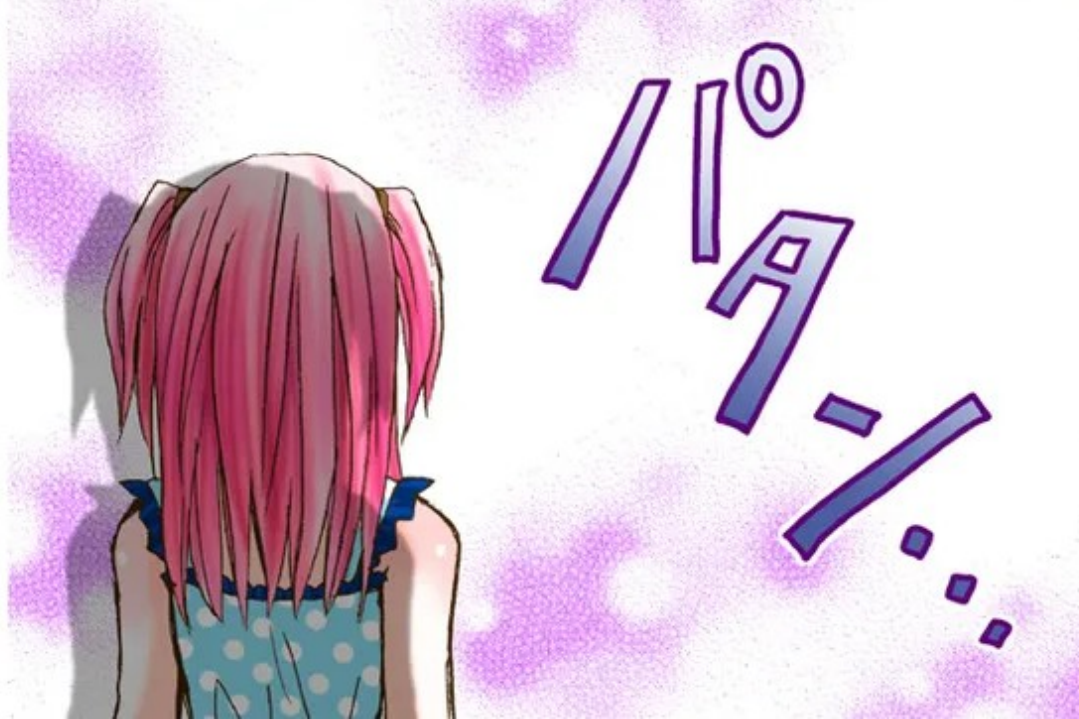


もう……カノジヨのことは…忘れよう

これからは有華を大事に…

有華…

チカッ  
チカッ

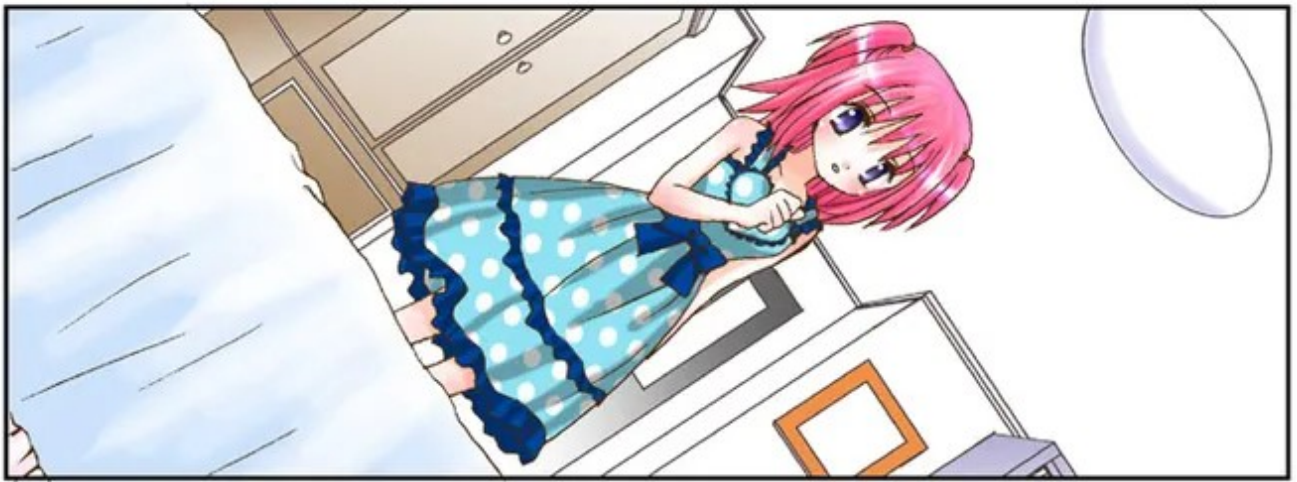


# 遊月恋歌

第2話：分裂



ゆーきい









いやこっちこそ



……ほんと  
ごめんね



正直言って  
50%くらいは  
正式に別れ話を  
切り出されるんじや  
ないかと思ってた



メールを無視して  
みたりしたのは  
逆にオレの気を  
ひきたかったかららしい

だって幹弥くん  
付き合うようになってから  
あんまりまめに連絡  
してくれなくなったから…



翔子も  
そうしたら翔子の  
気持ちわかるかな  
って思ってた

うーん…  
オレが原因  
だったとは



かわいいじゃないか…!

△っ!



けど、こんなこと  
しなきゃ  
いけないかったね

ごめんなさーい



話せば…わかってくれるだろうか…

まじで…



まじで…

サッ



有華…



そして…



キラ

キラ

まじで…

……っ



今日は有華の  
家庭教師の日だ

カチャッ

…こんちは







ぎゅっ

ここでまた  
有華としたら

く…だめだろ…

おに…ちゃ…

あっ

ぎゅっ



…本当のこと  
話せなくなる…!

は…  
は…



声…出すなよ  
有華

すっ

は…  
は…



なるの…

は…  
は…



んっ

んっ



つづく

